



# 2022年度 第2四半期 決算説明会資料

JT Group CFO  
加藤 信也

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。

※用語の定義については、スライド17以降に記載しております。

# 将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等



# 2022年度 第2四半期実績

# 2022年度 第2四半期全社実績

(億円)	2022年 1-6月	前年同期比
<b>財務報告ベース</b>		
売上収益	12,668	+10.7%
調整後営業利益	4,149	+15.8%
営業利益	3,830	+18.9%
四半期利益	2,641	+17.3%

為替一定ベースcore revenue : 前年同期比 +3.7%  
為替一定ベース調整後営業利益 : 前年同期比 +8.0%

- たばこ事業における力強いプライシング効果が牽引

## 売上収益（財務報告ベース）

- 各事業におけるトップライン成長、円安影響が発現し、前年同期比増収

## 調整後営業利益（財務報告ベース）・営業利益

- 売上収益の伸長に加え、円安の進行により、いずれも増益

## 四半期利益

- 金融損益の悪化があったものの、営業利益増益により増益

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

# たばこ事業：数量実績

(億本)	2022年 1-6月	前年同期比
総販売数量	2,628	▲0.4%
Combustibles 販売数量	2,587	▲0.6%
RRP販売数量	40	+14.5%

## 総販売数量

- (+) EMAの伸長（イラン、ポーランドにおける数量モメンタムに加え、渡航制限緩和によるGlobal Travel Retailの回復）
- (-) 総需要の減少（フランス、フィリピン、ロシア、UK等）、日本におけるCombustibles総需要減少

## Combustibles

- (+) 主要市場の大半で引き続きシェアが伸張  
：イタリア、フィリピン、ルーマニア、スペイン、台湾、トルコ
- (±) 渡航制限の緩和影響
- (-) ロシア・ウクライナ両国からの輸出分に係る在庫不足影響

## RRP

- (+) 日本でのPloom X発売によるシェアの増加・HTS\*カテゴリの伸長

\*heated tobacco sticks

# たばこ事業：財務実績

(億円)	2022年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	11,053	+11.3%
(同 為替一定)	10,281	+3.6%
調整後営業利益	4,251	+14.1%
(同 為替一定)	3,970	+6.5%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

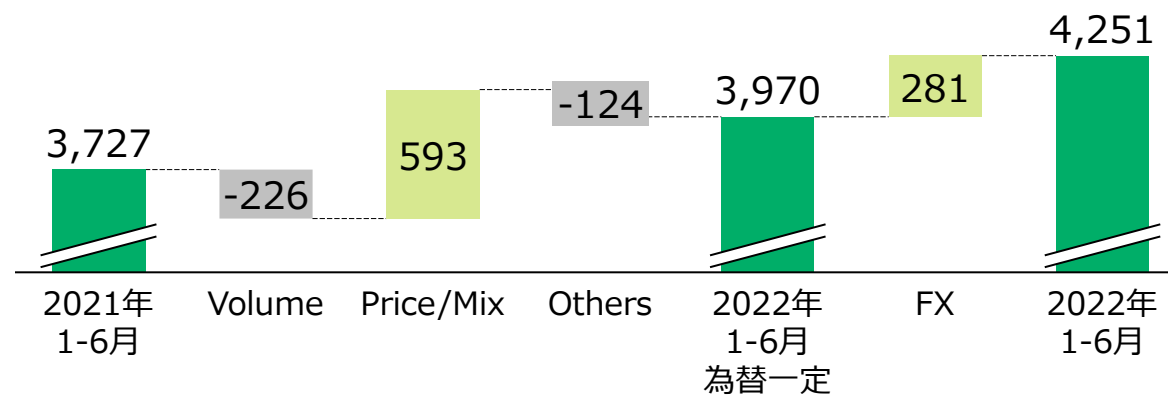
## 自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- 主要市場におけるプライシング効果が、日本、UK等の高単価市場での総販売数量減少によるネガティブな数量効果を上回り、増収
- 資源価格高騰、インフレ影響によりコストは対前年同期増加も、売上収益の増加により増益

## 為替影響

- 円安によるポジティブな影響

## 調整後営業利益 増減要因 (億円)



# たばこ事業：クラスター・主要市場サマリー

## Asia

### 日本

- Combustibles販売数量の減少をRRP販売数量の増加が一部相殺
- Combustiblesの低価格帯ポートフォリオ強化のため新製品（Camel Craft, MEVIUS E series）を投入
- 10月増税に伴うRRPの価格改定については時期を見定めて申請

### フィリピン

- Camel、Mightyが牽引しシェアが伸張
- 増税値上げによる総需要減少影響により、総販売数量は減少

### 台湾

- Winston、MEVIUSが牽引しシェアが引き続き伸張
- 総需要が減少する中、総販売数量は前年を上回る

## WE

### イタリア

- Winstonの好調により、シェアが伸張
- 総需要の減少幅は想定通り

### スペイン

- Camel好調により、シェアが伸張
- 渡航制限の緩和に伴い、総需要及び総販売数量が増加
- ポジティブな単価差/商品構成影響を確認

### UK

- 渡航制限の緩和・値上げに伴う総需要減少加速により、総販売数量が減少
- Combustiblesの低価格帯にてMayfairとBenson & Hedgesの新製品を投入

## EMA

### ルーマニア

- Winston、Sobranieが牽引し、総販売数量、シェアともに増加
- ポジティブな単価差/商品構成影響を確認

### ロシア

- HTS総需要は増加したものの、Combustibles総需要が減少し、トータル総需要は減少
- ダウンレーディングに伴いCamel Compactのシェアが伸張

### トルコ

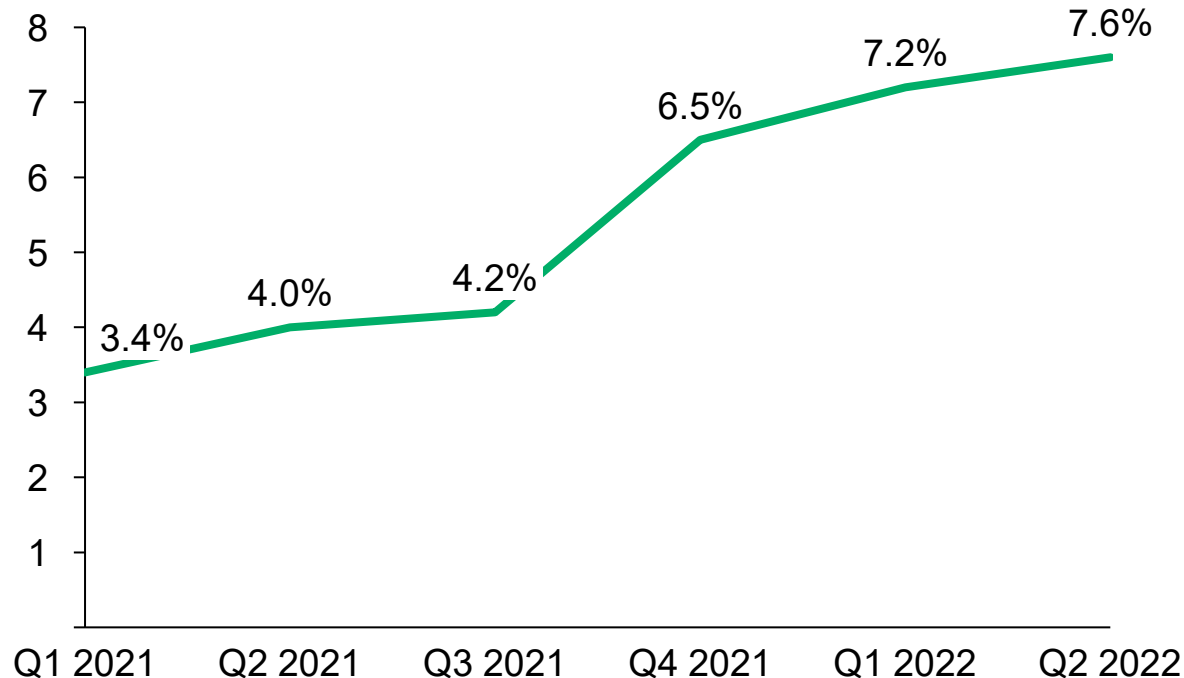
- Winstonの好調、インフレを背景とした流通在庫拡充により総販売数量が増加
- 増税・インフレを受け、値上げを実施

# たばこ事業：Ploom Xの進捗

- Ploom Xの全国発売後（2021年8月）、HTS SoSは着実に推移し、HTSカテゴリにおいて7.6%のシェアを獲得
- 日本での知見を活かし、下半期からPloom Xの海外市場での上市を順次実施



日本市場：HTSカテゴリにおけるJTシェア\*の推移



\*JT推計（出荷ベース）  
 $JT \text{ HTS SoS} = \text{HTS販売数量} / \text{HTS総需要}$

本スライドは、JTグループの事業活動を説明するためのものであり、当社グループの製品について、消費者への販売促進もしくは使用を促す目的のものではありません。



# 医薬事業・加工食品事業：財務実績

## 医薬事業

(億円)	2022年 1-6月	前年同期比
売上収益	393	+6.1%
調整後営業利益	49	+36.8%

- **売上収益：** 鳥居薬品において、皮膚疾患領域ではアトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム®軟膏」、アレルギー領域では「シダキュア®スギ花粉舌下錠」「ミティキュア®ダニ舌下錠」の売上が伸長し、前年同期比6.1%の増収
- **調整後営業利益：** 鳥居増収により、前年同期比で増益

## 加工食品事業

(億円)	2022年 1-6月	前年同期比
売上収益	735	+4.3%
調整後営業利益	14	▲0.2%

- **売上収益：** 冷食・常温事業の価格改定、販売数量伸長を主因に増収
- **調整後営業利益：** 原材料費等の高騰やネガティブな為替影響が、前年に発生した子会社の工場火災に係る除却損の剥落影響を相殺し、前年同期とほぼ同水準

# 2022年度 修正見込

# ロシア市場における現況と修正見込への影響

## ロシア市場における事業概況

- 当社グループは国内外におけるあらゆる制裁措置を順守した上で事業運営を継続しているところ
- 事態の長期化・複雑化により、安定的かつ持続的な事業運営に著しい支障が生じる蓋然性を踏まえ、ロシア市場におけるたばこ事業の運営のあり方について、当社グループ経営からの分離を含めた選択肢の検討を継続

## 財務影響及び修正見込への影響

- 2022年12月期修正連結業績見込において、当社グループ全体の売上収益及び調整後営業利益にロシア市場が占める割合はそれぞれ約9%、約17%
- 原材料の調達に関してサプライチェーン上の制約に直面するリスクは依然として存在
- センシティブティガイドランス
  - ✓ RUBが円に対して前提レートから1%変動する場合、調整後営業利益（修正後）に対して約20億円の影響が生じる見込\*

\*RUB以外の主要通貨の為替感応度は次の通り：各通貨に対して前提レートから1%円安方向に変動する場合、修正後の調整後営業利益への影響はGBP約+10億円/ TWD 約+10億円/ PHP 約+10億円/ EUR 約+10億円/ CHF 約-5億円

# 2022年度 全社業績：修正見込

(億円)	2022年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比
<b>財務報告ベース</b>			
売上収益	<b>24,860</b>	+1,710	+6.9%
調整後営業利益	<b>6,250</b>	+140	+2.4%
営業利益	<b>5,490</b>	+150	+10.0%
当期利益	<b>3,620</b>	+60	+6.9%
FCF	<b>3,880</b>	+460	▲940億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。  
為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

**為替一定core revenue：対当初見込+0.9%、前年度比+0.7%**

- たばこ事業における追加的なプライシング効果を主因に、上方修正

**為替一定調整後営業利益：対当初見込▲4.9%、前年度比▲1.1%**

- 資源価格高騰、インフレによるコスト上昇影響等を主因に、当初見込より下方修正

**売上収益・調整後営業利益（財務報告ベース）**

- 円安の進行を受けて上方修正

**営業利益・当期利益**

- 営業利益は、調整後営業利益の上方修正に伴い、上方修正
- 当期利益は、金融損益の悪化・税負担率の増加を見込むものの、営業利益の上方修正に伴い、上方修正

**FCF**

- 調整後営業利益の上方修正に加え、運転資本の改善等により、当初計画から460億円上方修正

# たばこ事業：2022年度修正見込

## 数量前提

	2022年 修正見込	2022年 当初見込
総販売数量	変更なし	前年度比▲3%程度

## 財務見込

(億円)	2022年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
自社たばこ製品 売上収益	21,480	+1,620	+7.3%
調整後営業利益	6,550	+150	+2.5%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

## 数量前提

- 当初見込から変更なし
- 好調な上半期のパフォーマンスを、下半期の大幅な数量減少が相殺
  - 渡航制限の緩和影響の継続
  - ロシア・ウクライナ情勢に伴う影響

## 財務見込（為替一定ベース）

自社たばこ製品売上収益：対当初見込+0.9%

- 上半期における当初見込を上回るプライシング効果を織り込み、上方修正

調整後営業利益：対当初見込▲4.5%

- 資源価格高騰、インフレによるコスト上昇影響及びロシア・ウクライナ両国からの輸出分に係る在庫不足影響等により、下方修正

## 財務見込（財務報告ベース）

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- 円安の進行を反映し、上方修正

# 医薬事業・加工食品事業：2022年度修正見込

## 医薬事業

(億円)	2022年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
売上収益	825	+10	+2.6%
調整後営業利益	100	-	▲9.9%

- 売上収益：対当初見込 + 1.2%**  
 円安によるロイヤリティ収入の上振れ及び鳥居薬品の増収見込みを織り込み、上方修正
- 調整後営業利益：当初見込から変更なし**  
 増収を見込むものの、研究開発費の増加等により、当初見込の100億円を据え置き

## 加工食品事業

(億円)	2022年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
売上収益	1,540	+10	+4.6%
調整後営業利益	20	▲5	▲49.4%

- 売上収益：対当初見込 + 0.7%**  
 追加の価格改定を織り込み、上方修正
- 調整後営業利益：対当初見込 ▲ 20.0%**  
 更なる原材料費等の高騰影響を織り込み、当初見込から5億円の下方修正



終わりに

# Closing Remarks

## 1-6月期実績

- たばこ事業における力強いプライシング効果に牽引され堅調な実績

## 2022年修正見込について

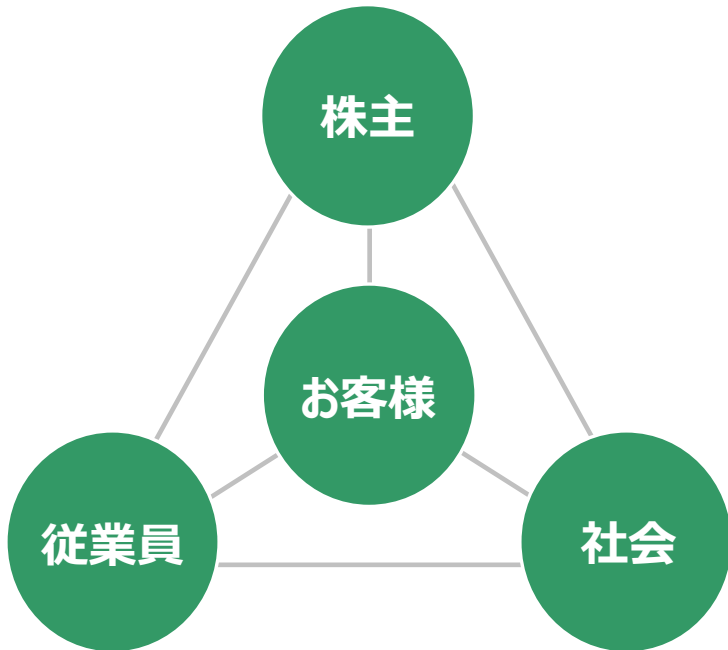
- 資源価格高騰、インフレによるコスト上昇影響等を反映し、為替一定調整後営業利益は下方修正
- 財務報告ベースの調整後営業利益及び当期利益は、円安の進行により上方修正

## PloomXの進捗

- 日本市場のHTSカテゴリにおいて7.6%のシェアと着実に推移
- 日本での知見を活かし、下半期からPloom Xの海外市場での上市を順次実施

## 株主還元

- 1株当たり年間配当金は当初の150円から変更なし
- 中間配当は75円





## <用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース調整後営業利益：	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue：	前年同期の現地通貨対米ドル、米ドル対円の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品。当社製品ポートフォリオにおけるheated tobacco sticks (HTS), infused-tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco sticks (HTS)：	高温加熱型の加熱式たばこ。1スティック = RMC1本として換算
Combustibles：	製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド

## <用語の定義>

---

総販売数量：	水たばこ／製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリを除いたばこ製品の販売数量
Combustibles販売数量：	水たばこ／E-Vapor／無煙たばこ（Snus・ニコチンパウチ）／加熱式たばこ／製造受託を除いたばこ製品の販売数量
RRP販売数量：	Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数（RMCとして換算）。デバイス/関連アクセサリ等は含まない
自社たばこ製品売上収益：	物流事業／製造受託等を除く売上収益